

勝者・敗者のふるまいについて

1月13日に高校サッカー選手権大会決勝が埼玉スタジアムでありました。静岡学園と青森山田高校の戦いでした。私は遺愛の卒業生のお父さんが監督をしている青森山田高校を応援していました。青森山田は昨年1月の選手権大会で全国優勝し、12月にはクラブチームが参加しているサッカープレミアリーグファイナルで全国優勝を遂げたチームです。

前半は青森山田が2対0とリードしました。しかし前半の終了間際に1点返され、後半になると静岡学園の猛攻が始まり同点にされ、その後も受けにまわり、終盤に逆転ゴールを決められ、惜しくも2連覇を逃しました。青森山田のキャプテンは「これまでのサッカー人生で一番悔しい敗戦だった」と試合後、語っていました。本当に悔しかったのだと思います。

でも素晴らしいなと思ったのは、試合後の表彰式です。元日本サッカー協会会長の川淵氏はツイッターで、「表彰式の時、準優勝の青森山田の選手たちが気をつけの姿勢で静岡学園の選手たちを見守っていたのが印象的。何か胸を打たれた。有難う青森山田高校の選手たち！！」とねぎらっていました。

それに対するツイッターのなかにも、「ああいう負け方をしたら、目の前で見せられる表彰式なんて辛くて下を向いていたり泣きじゃくっている選手がいてもおかしくないけど、今日の青森山田の選手達は悔しい顔はもちろんしつつも、しっかりと静岡学園の表彰を見つめていた。まだまだ高校生だから、感情を爆発させるのも悪くないと思うけど本当にグッドルーザー（良き敗者）だった。」とか「勝つよりも負けた経験がある方が強い。これから山田はさらに強くなる。感動をありがとう！」、「美しい敗者には、その先に輝かしい未来が待っている。」などのコメントが寄せられていました。

プレイが一流だからと言って、必ずしもマナーが一流でないこともあります。同じサッカーでも元旦に行われた天皇杯の決勝で負けたチームのある選手は、ガムをクチャクチャ噛みながら閉会式にのぞみ、厳しい批判を受けていました。また昨年のラグビーワールドカップで準優勝したチームのメダル授与式の態度は、本当にいただけませんでした。首にメダルをかけてもらうのを拒否した選手、かけてもらってもすぐに外した監督の姿を見て、幻滅しました。準決勝までは私はそのチームの大ファンで、ぜひ優勝してほしいと強く願っていましたが、決勝後の表彰式の態度を見て、心から残念に思いました。

勝負事ですから、必ず勝ち負けはつきます。勝者がいれば、必ず敗者がいます。勝って大喜びをするのはいいですが、その場に敗者がいる時には、気遣いをしてほしいと思います。残念ながら負けた時には、心から勝者の努力をたたえ、次の勝利をめざしてほしいと思います。

道南で、様々な競技、分野で高い能力を発揮している遺愛の皆さんにはぜひそうあってほしいと願っています。

2020年1月20日（月）

